

真夏の昼の夢

外に出るとジリジリ肌につきささる日差し。あらためてこの夏、暑かった～  
事務所側正門から教会前の園庭に通じる坂道も  
たいした距離じゃないのに、日に何度か登っただけで  
首もとはずっかり日焼け 道脇の葉っぱもぐったり

8月下旬の午後、その坂道から子どもの声がとぎれとぎれに聞こえてくる  
どうしたんだろう？

外に出てみると、年長のK君とRちゃんの坂道を駆けのぼる後ろ姿  
しばらくして、今度は走り降りてきた

「何かご用事かな？」首を横にふる2人

そして、もう一度駆けのぼり、また降りてくる

「何してるん？」「リレー！」（えっこの暑いのに？）でも、すぐピンときた  
「桐生くんの、あの銀メダル？」「そう～」といって、また駆けのぼっていく  
リオ五輪、男子400㍻リレー。たしかに格好良かったもんな～

次の日、ざわめき声が増えている。外にでると、仲間が加わったらしい  
ふだん園長の顔を見れば、じゃれたり話しかけてくる子どもたちなのにな  
なぜか皆ただもくもくと走り続けている（不思議…）

分かっているがみんなに尋ねてみる。「何してるん？」「リレー」

ゆるやかに曲がる坂道はそういえば競技トラックにも見える

あまりに真剣なので、いたずら心で言ってみた。

「バトンは？」。

走る足がぱたりと止まった。一瞬、まずい、という表情。手が空だったのだ  
とぼとぼ、みな園庭に帰っていく。「悪いこと言ったかなあ？」

しばらくして、ざわめき声が復活。K君の手には真新しい青竹の筒が  
竹細工の岩本さんが先日作ってくれた水鉄砲の胴体を借用したらしい  
よく考えたな～

大人にとってはたわいもない、リレーごっこ

でも子どもにとっては、憧れの選手になれる最高の時間

きっとマラカナン・スタジアムの大歓声が聞こえていたにちがいない

そんな日々が約1週間。気がつくと、もう声は聞こえなくなっていた

自分で始め、工夫して、一つの遊びを思う存分やりつくした満足そうな表情  
これこそ今の子どもたちに一番必要な時間なのかもしれない…

そう思いながら耳を澄ますと、秋の虫が鳴き始めていました

（つくし保育園園長 つだ かずお）

つくし保育園では、一人ひとりの子どもたちがより一層、幸せに主体的に過ごしていけるように見守り、援助していくために職員も自己研鑽を積んでいます。日本キリスト教保育所同盟の夏季研修会にも参加し、学びの時を持っています。毎年各地で行われるのですが、今年度は東北大震災の被災地でもある宮城県の松島で行われ、福島県南相馬市にある保育園にも見学に行っていました。震災から5年という月日が経ちましたが、復興への道のりの中で、今もなお原発被害の中で除染を繰り返しながら保育されているところが多くあります。震災の年に生まれた子どもたちが、年長の年を迎えました。沢山の豊かな自然の中で過ごしているにも関わらず、原発による放射能汚染で、子どもたちが大好きな葉っぱやドングリ、虫たちも触ってはいけないという状況の中で、育ってきました。現地の職員の方々は、室内に砂場を作ったり、落ち葉やドングリを地方から送ってもらうなど、様々な創意工夫をしながら過ごして来られましたが、除染の繰り返しの中で、触れても良いようになって、触れられなくなった子どもたちの状態があることなど、数多くの苦勞を語られたほんのひとこまですが、厳しい現状をお聞きしました。震災のこと、被害に遭われた方々のことを忘れないと同時に今、置かれている現状を知ること大切だと感じました。私たちが今何をなすべきか、ご一緒に考えていただくと幸いです。